

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆりいか (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和8年3月12日		～ 令和8年4月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和8年3月12日		～ 令和8年4月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人の子ども達に合わせたステップで個別療育を行っている。	保護者からの聞き取りだけでなく、日々の様子の記録や職員間でのケース共有を通してニーズを多角的に捉え、個別支援の見直しを継続的に行っている。 また、遊びの中にねらいを持たせた療育を設計し、子ども達一人ひとりに合わせた段階的なステップアップを意識することで、「楽しさ」と「成長」の両立を図っている。	ケア記録をもとに支援内容や成長の共有を行い、職員間で共通理解を持ちながら療育に取り組んでいる。 さらに、支援の意図や効果を振り返る機会を設け、PDCAの視点を取り入れながら、継続的な支援の質向上を図っていく。
2	共有・運動・個別療育・個人ワーク・静養室など、目的に合わせ各スペースを活用している。	各スペースの役割を明確化し、活動の流れや目的が子ども達にも伝わるよう構造化した環境づくりを行っている。 支援内容と環境設定の関連性をさらに高めるとともに、視覚支援等も取り入れながら、より主体的に行動できる環境整備を進めている。	必要に応じてパーティションでブースを設け、子ども達の特性やその時の状態に合わせて、集中しやすい環境や落ち着いて過ごせる空間づくりを行っている。
3	子ども達の気持ちや背景を大切にしながら関わり、安心して過ごせる関係づくりを重視している。	子ども達の気持ちや背景(結果だけでなく、その過程や気持ちの動き)を大切にしながら関わることを意識している。 一人ひとりの特性に合わせて、見通しを持って過ごせるようスケジュールの提示や活動の流れを視覚的な支援も取り入れながら、自分で選択できる場面を大切にしています。	ストラテジーシートを活用しながら、行動の結果だけでなく、その過程や気持ちの動きにも目を向けた関わりを大切にする。 職員同士での共有や振り返りを大切にしながら、子ども達が安心して見通しを持って過ごせる環境づくりを深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の再現性。	良好な関わり場面と課題が見られる場面の双方について職員間で共有し、支援の質の均一化を図る点については、さらなる充実が必要である。	外部講師による専門的な研修を活用し、知識・技術の向上を図るとともに、学びを支援に落とし込み、職員間での共有や振り返りを通して、支援の標準化と質の向上を図る。
2	地域との繋がりが少ない。	市内の障がい児童通所事業所とは関わり連携している。 共催でイベントも実施しているが、地域との関わりが少ない。	・障がい児童通所事業所に限らず、守口の障がい福祉事業とのつながりを増やし、地域の方からの福祉・福祉事業所の認知を広げる。 ・守口市障がい児通所事業所連絡会への参画。